

### 第3回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成30年8月7日（火）10:00～11:40

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第2会議室

#### 3 出席者

(1) 委 員 中川委員長、佐々木委員、藤田委員、有田委員、池井委員、鈴木委員（順不同）6名出席

(2) 鳥取市 （協働推進課）福島課長、宮崎課長補佐、西尾係長、平野主事、細川主事

(3) 傍聴者 なし

#### 4 議 事

##### (1) 審査事項

市民まちづくり提案事業協働事業部門（行政提案型事業）交付申請団体の審査について

(委員長)

市民まちづくり提案事業という、行政側と市民側が一緒に企画を考えてそれに対して補助金をつけるというもの。今回の審査にかかる前に、今回の審査を公開にするかどうかをお諮りしたい。

(一同)

公開で。

(委員長)

審査会を公開するというご意見をいただいたので公開とする。

(事務局)

##### 【資料1】説明

本年度は、文化芸術によるまちなかのにぎわい創出につながる事業をテーマに募集したところ、1件の応募があった。応募団体は鳥取おやこ劇場、担当課は文化交流課である。

提案団体である鳥取おやこ劇場、担当課の文化交流課が事業の説明を行う。

(文化交流課)

このたびの提案については幅広い世代を対象に舞台劇の鑑賞などを通じながらまちなかににぎわいを生み出そうとするもので、まちなかを拠点に将来的な事業展開を見据えておられるという点で、課題解決につながるのではと考えており、ぜひ連携して取り組みたいと考えている。

(鳥取おやこ劇場)

鳥取おやこ劇場は、親子で楽しめる舞台劇・人形劇の鑑賞事業を柱とした団体で、その他イベントも多数企画している。実績としては、県民文化会館でのバザー開催やわらべ館のイベントホールを利用した鑑賞事業を行い、多くの方に来ていただいた。それ以外にも湖山池の青島での野外活動や駅前のサンロードでワークショップを行った実績もある。小さな子どもから高齢の方まで幅広い世代が対象の活動を行っており、そのノウハウが生かせるのではないかと考えている。おやこ劇場は日本全国にあり、県内だけでも4つある。県内外に広くネットワークがあるので、宣伝活動にも活用できるほか、広報活動等をわらべ館と連携して行っていけると考えている。今後、わらべ館の横に活動拠点を移す予定としており、そこで継続的なイベントの企画を検討している。月1回ずつでもイベントを企画して、たくさんの方に立ち寄ってもらえるようにしたいと考えている。今回の事業を継続することで、まちなかににぎわい創出のお手伝いができたらいいと思うし、居心地のいい場所をつくっていいと思う。

(委員)

メインイベントとして200名ということだが、動員について心配している。どのように200名といった人数を集めるのか教えてほしい。

(文化交流課)

まず行政の立場では、広報宣伝的要素として、連携中枢都市圏を今年の4月から進めており、そのあたりで行政としての後方支援が可能になると考えている。

(鳥取おやこ劇場)

おやこ劇場に関して、会員のうち今回の事業鑑賞の対象者が50～100名くらいと考えており、その方たちに呼びかけを行う。また、演劇鑑賞会という

定期的に演劇鑑賞をされておられる団体があり、会員だけで700～800人くらいおられる。そういうところに呼びかけをしていきたいと考えている。もちろん一般の方にも声かけをしたいと思っている。

(委員)

にぎわいにつながる素晴らしい事業だと思うので、ぜひとも成功につなげていただきたい。

(委員長)

この事業自体は、今年は市と協力していくと思うが、来年以降同じような活動をしようとする場合、開催費用についてどのような戦略を持たれているか教えていただきたい。

(鳥取おやこ劇場)

鳥取おやこ劇場は鑑賞事業を柱としている。もともと年5回鑑賞事業をやっており、その予算は鑑賞費や会員の会費となっている。補助金がいただけるときは申請をしている。

(委員長)

せっかく圏域でやられるので、来られたお客さんのエリアをアンケート等にとって、来られた自治体の受益者負担で支払うというほうが継続性がでると思う。今回のように行政との協働でやっているというのが、他の自治体にも波及したほうが後々いいと思う。圏域の市町村と連携してやり方を柔軟にするなどの段取りを市の担当課でやってみてはどうかと思った。

(事務局)

質問はこれで終了する。退出いただいた後、お配りしている採点表に記入をお願いする。

## (2) 協議事項

### 参画と協働のまちづくりフォーラムについて

(委員長)

今佐治と宮下で進めているフィールドワークも含めて、現在の流れをフォーラムで関係者等としっかりと共有したほうがいいのではないかと思う。今日は事務局で作っていただいた、たたき台について具体的に意見をいただきたい。

(事務局)

【資料2】説明

(委員)

なぜ会場が人権交流プラザなのか。佐治や宮下がモデル地区なのだから地域でやってはどうか。

(委員)

このフォーラムを開催する一番の目的は、実際に関わっている人達が、自分の地域をより良くしていけないといけないなと考えてもらうことだと思う。各地区からきた人が課題意識を持って帰ってもらう、そんな会にしてはどうか。他人事として考えるなら意味がないと思う。

(事務局)

まず会場については、アクセス、キャパシティ、使用料の有無という点で考えている。また、他地域の話で終わらないようにということについては、佐治・宮下の事例発表で、検討している中でも特にここが肝だという部分を持って帰ってもらえないかと思っている。フォーラム開催予定の12月頃にはフィールドワークも一定の形が見えてきて、ある程度具体化したものがお示しできるのではないかと考えている。

(委員)

フォーラムの後、皆が手ごたえをもってやってもらえるような仕掛けを考えしてもらわないと、今言われたようなことだけでは足りないと思う。地区によってまちづくり協議会の補助金の使い方にも差がある。何をしたいかわからないという地域が真剣に何かしようと思うようにならないとやった意味がないと思う。

(事務局)

行政としてもフィールドワークの中で補助金のあり方を見直さないといけないと思っている。地域のニーズにマッチしたものになっているかどうか、全部見直して本当に地域が必要としている地域課題解決とは何かを、地域が自立的に考えるということをもう一回改めてやる必要があると思っている。今回もパネリストに市長が出させていただく。現場がこういう状況にあるというエッセンスを市長が持って帰るということも、必要なことかと思う。

(委員長)

市長が来て直接話を聞いたということで意味が一つあるのと、自分での地区でもやらないといけないなと思わせるには、地区内でやってきたことを持ってきてもらい、佐治や豊岡等の事例と照らし合わせていただき、自分の地区に投影させるワークのような時間をとったほうがいい。今の構成だと、パネルディスカッションを聞いて、終わってしまうという懸念はある。地域の方に考えてもらって、その場で振り返りをして、持ち帰ってアウトプットをしてもらう。各地域が進むスピードは違っていてもいいが、やらないといけないな、というところを持ち寄りところまではしておいたほうがいい。

(委員)

まちづくりは市全体の最も重要な課題。今後地域において少子高齢化の高齢者の部分を支えていくのは地域になる。そのためにはどういう風に地域を構築するのかというのがまちづくりだと思う。こういう機会に市長も出られて意見を述べていただき、我々は市長の考え方を知る。逆に市長もまちづくりの問題点というのをここから抽出していただくということは大切ではないかと思う。

(事務局)

まちづくりについて、行政主導という形ではなく、十分時間を使っていいから地域と意見のすり合わせをしていくようにというのが市長の考え方。フィールドワークで出てきている、資金面、運営面、組織面等の課題解決の可能性について十分にすり合わせをした上で市長に諮っていかうと考えている。

(委員)

私の地区では、7月7日に避難指示が出たあと、地域で総括をした。防災はまちづくりの根幹に触れる部分だと思うが組織が機能していない。多くの方が我が事として受け取っておらず、行政がしてくれるだろうという考えになっている。自分のことは自分でして、自分でできないところを行政にお願いするという立場で取り組んでもらわないといけない。そういうところに気づくフォーラムになればいいと思った。

(委員長)

豊岡や雲南でも、いわゆる自慢大会のような事例報告等で、住民の方に直接聞いてもらうということを継続して少しずつ広げていたかと思う。地域での危機感の感度はばらばらなので、今回のフォーラムも事例をうまく話してもらい

ながら、気づかれたところからやっていかざるを得ないと思っている。問いかけて、それを自分にあてはめて考えてもらい、同じ地域で参加した複数の人とやり取りをするという仕組みは必要だと思う。

(委員)

鳥取市自治基本条例はまちづくりの決意表明のようなものだと思っている。各地域のまちづくりの代表者に対してアピールし、今市長は責任を持って全面的にまちづくりを進めようとしている、ということを説明する部分があってもいいのではないかと思う。

(委員長)

行政側はやればやるほど詳しくなる。地域の団体からすると、知らないことと行政側が知っていることの差がでてしまう。よりみんなに知ってもらうために言い続けなければならないのはどんなことかというのを意識しながら、情報提供の方法を工夫するとよいと思う。

(委員)

まちづくり協議会の役員にでてもらうのはいいが、一般の住民はまちづくり協議会を知らない。自治会が全部しているという認識。どう住民に知ってもらうのが大事。

(委員長)

まちづくり協議会の認識や浸透がなされていない住民に火をつけるというのが、並行作業になってくると思う。まちづくり協議会の認知度についてアンケートをとってもいいかもしれない。自治会だけでは解決できない話を、自治会を束ねたある程度のエリアのところで解決している人達がいることを認識してもらうために、いつかどこかであたらないといけない話と思う。

(事務局)

まちづくり協議会という組織の目的や位置づけについてもフィールドワークの中で検討していこうと思っている。今段階ではまちづくり協議会は任意組織で、地域課題を地域で見つけ、それを自分のこととして解決するための機能体として、発足していただき、市も支援を行ってきた。どうにか今年のうちにも明確化し、役所側のほうでも可能なものについて条件整備したうえで外向きにアナウンスしていければと思っている。

(委員長)

フォーラムは12月の土日のどちらかということになると思う。内容についてはご指摘のあった、単なるパネルディスカッションに終わらないような工夫ができないかというのを事務局に検討していただく。講演会としては、豊岡市は非常にバリエーション広くやっておられていて、現場で苦労されているところ、うまく進められているところの事例も説明いただけると思う。どのくらいの時間で、どういう段階で進んできたのかというイメージが、講演の中で見るといいと思っている。

(委員)

豊岡市から招くとしたら誰になるのか。

(委員長)

いろんな事例を話されるとしたら、全体がわかっている、行政側で関わってこられた方が一番いいのかなと思う。

(委員)

行政関係者ではない人で、全体的に幅広く知っている人はいないか。

(委員長)

豊岡市役所に聞いてみる。もしかすると地域マネージャーみたいな、公民館主事として間に入って事業を進めている中でうまくいっている方は半分民間みたいな動きをしているのでその辺りがいいかもしれない。

### (3) 報告事項

#### ①地域組織のあり方検討の状況について

(事務局)

【資料3】説明

(委員長)

担当者等も含めて進行について確認して、次回に向かっているという段階。支所を通じてどの方をお呼びして議論を進めていくかが大事である。今後他の地域から手があがったときにどういう手順で受け止めて、支所と連携してやるかというのはモデル地区として確認していかないといけない。次回はワークショップ形式に近いやり方にする。やり方自体もうまく担当課の中で型にしてお

いたほうが良いと思う。委員でオブザーバーとして参加されたい方がおられたら、見ていただければ雰囲気はわかるかもしれない。

## ②審査結果報告

(事務局)

審査した結果、合計点が109点、平均点が18.17点。また審査基準である、過半数の審査員の評価が15点以上であるかどうかについては6名の審査員のうち5名の審査員が15点以上だった。またいずれかの項目で認められないと評価した審査員は1名だった。以上の結果から、鳥取おやこ劇場の提案された事業については市長に推薦することとする。いただいた意見は、鳥取おやこ劇場、担当課に事業の際に参考にしていただくために記載させていただく。

(委員長)

その他何か意見はあるか。

(委員)

前回の委員会でも話があったが、国のほうでは美術館、博物館、公民館を、首長部局に移すという方針を決め、その方向に向かっている。この際公民館を首長部局にするということと、コミュニティマネージャーのような人材を入れ、もう少し給料を上げるなど、公民館の活動をもっと少し重みをおいたものにしていかないとまちづくりに限界がくるような気がするのでそこを検討していただきたい。

(事務局)

全国的な動きとして公民館についてはコミュニティセンター化ということで首長部局に移っていく自治体が徐々にではあるが増えている。現在鳥取市も検討させていただいており、この度のフィールドワークで一定の答えを出す必要があると考えている。また、職員の報酬面については、2年後には国のほうで任用形態の大幅な見直しがある。早急にこれが望ましい姿だという答えを出す必要があるということで現在作業を進めている。

(委員長)

そういうところも情報共有できるところはして、変えられるところはどんどん変えたほうが良いと思う。